



③ 中国木材株式会社

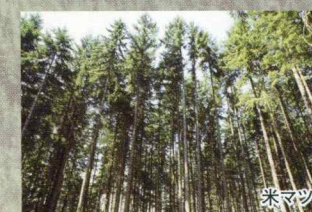
受付  
'19. 3. 15  
ネカリアセンター  
E

これまで、そしてこれからも、  
**人と環境のことを  
一歩進んで考えています**

MAKE THE BEST USE OF THE FOREST RESOURCE AND  
CONTRIBUTE TO THE PRESERVATION ON THE ENVIRONMENT OF THE EARTH

木は成長の過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出すことは広く知られています。  
また、燃やすと二酸化炭素が排出されてしまう木は二酸化炭素の固定物と言えます。  
成長が鈍り二酸化炭素の吸収力が弱まった伐採期にある木を、耐久性に優れた良質な住宅として固定し、  
植林により森林資源を永遠に継続させていくことは、地球温暖化の防止とともに  
私たちの生活に大きな恵みをもたらしてくれるものです。  
森林資源を活用する中国木材は、常に地球環境保全という観点で事業を見つめています。

社会の変化に対応し  
お客様のニーズに応え  
未来に向かって躍進する  
**中国木材グループ**



中国木材は、製材事業を核として、乾燥材の製造、集成材の製造、プレカット加工、  
端材の活用事業を含めた総合的な住宅用構造材のメーカーです。  
常に地球規模の視野から事業を捉えた物流合理化とともに、  
より低コストで省資源化された高品質の部材の普及を進めています。

ウエアハウザー社 ロングビュー山林区から眺めたレーニア山

# 業界No.1の実力

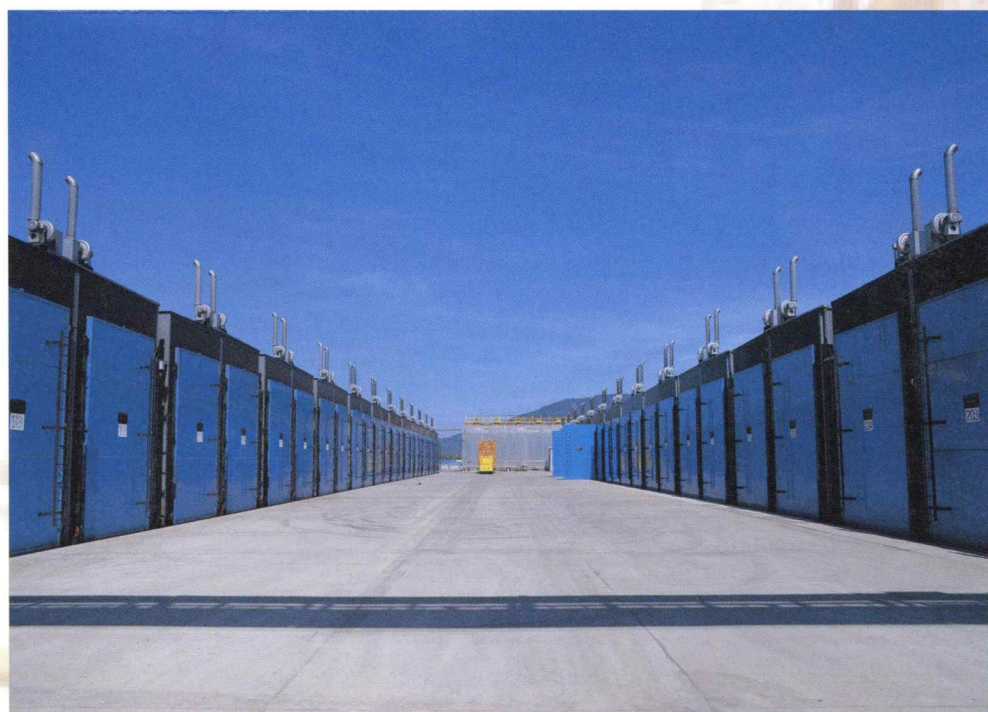
大型工場による製造。コストの低減と安定供給を実現します。乾燥材の製造に必要な「蒸気」と「電力」は、燃料を石油に頼らず、樹皮や製造過程の切削粉を利用した「大型自家発電付ボイラー」によって効率よく賄い、中国木材は、ゼロ・エミッション(ゴミ・ゼロ)を目指しています。

## 製材

原木は、樹皮を剥がし、需要に応じた長さにカットし、製材工場に搬入します。  
その原木は自動化された製造ラインを通過していく工程で、様々なサイズに製材され、製品に、あるいは乾燥材、集成材の原材料になり次工程に供給されます。  
当社では、本社工場と2007年に稼働開始した鹿島工場との米材製材二拠点化を実現し、一方が被災した場合などにも、全国のお客様のニーズに応えられる安心の体制となっています。  
さらに鹿島工場では、製材から加工までを世界最新鋭の設備で一貫生産でき、物流コストの削減とよりよい製品の即納体制を追求しています。



鹿島工場(製材)



郷原工場

## 乾燥へのこだわり

昔の家づくりは、棟上して構造を組み上げたら、1年以上も建築現場に放っておくことが普通でした。その間に木を十分乾燥させて、構造の安定を図ることが昔の大工さんの知恵だったのです。しかし、今はスピードの時代。構造体でゆっくり乾かすというこの伝統的な家づくりが難しくなっていました。そこで、前もってしっかり乾燥させた木材が必要になってくるのです。中国木材は、木が持っているすばらしい性能を最大限に生かすため、そして本物の家づくりのために木材乾燥にこだわり続けています。

乾燥機数(全て1基50m換算)  
稼働中 計964基

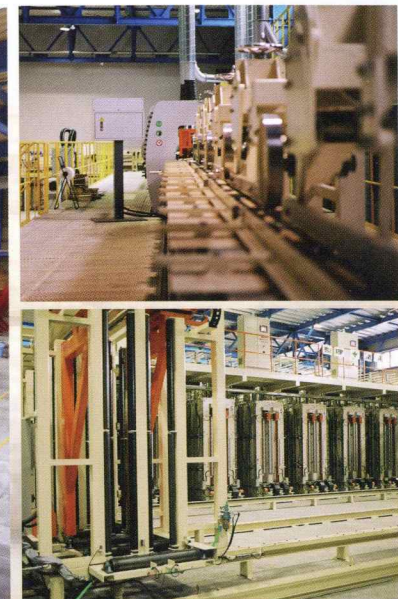
内訳	本社工場	76基(他に試験乾燥機)
郷原工場	332基	
鹿島工場	350基	
鹿島集成材工場	30基	
伊万里集成材工場	74基(他に試験乾燥機)	
日向工場	102基	

## 集成材

お客様のニーズの多様化に応え、製材から出てくる板材を活かすため、1997年から集成材を生産しています。  
さらに、環境問題にも対応するため、国産材への取り組みを開始し、日本で初めてとなる異樹種集成材「ハイブリッド・ビーム」の開発に成功しました。  
現在では、国産材であるスギ・ヒノキをはじめ、4樹種(ベイツ・スギ・ヒノキ・オウシュウアカマツ)で6種類(ベイツ・スギ・ヒノキ・オウシュウアカマツ・ベイツ・スギ・ハイブリッド・ヒノキ・スギ・ハイブリッド)の集成材を生産しています。



鹿島工場(集成材)



## 木材製品とグリーンエネルギー

製材の過程で剥がした原木の樹皮は、バイオマス燃料として大型自家発電ボイラーに投入し、木材乾燥に必要な蒸気と工場稼働に必要な電気エネルギーに変換します。  
製材過程で発生する木材チップは製紙原料に、オガ粉は活性炭原料になります。  
木材製品を製造する過程の副産物でグリーンエネルギーを生成し、そのグリーンエネルギーで木材製品をつくる。  
木を余すところなく活用し、環境に負荷を与えない生産システムです。



バイオマス発電(本社工場)

バイオマス発電とは、再生可能な生物由来の有機エネルギーによる発電のことです。  
私たちが作り出しているグリーン電力は、約166,000世帯分の家庭消費電力に相当するものです。  
※一世帯当たりの1ヶ月の消費電力を285kwhとして計算(出所:電気事業連合会)

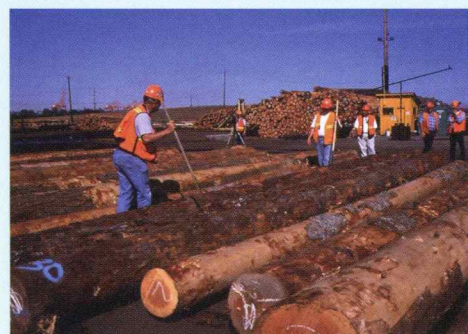
バイオマス設備

	蒸気生産能力	発電能力
本社	40t/h	5,000kw
郷原	50t/h	2,000kw
伊万里	20t/h	-
鹿島(神之池)	106t/h	21,000kw
日向	75t/h	18,000kw
伊万里	42t/h	9,850kw
本社(建設中)	42t/h	9,850kw
合計	375t/h	65,700kw

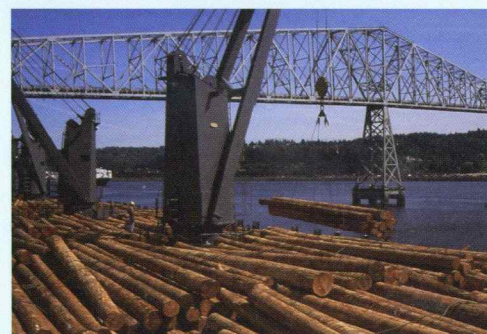
# 最適物流体制の追求

BUILDING UP THE OPTIMAL DISTRIBUTION SYSTEM

物流の最適化は当社の永遠の課題です。原木・製品の荷役から、工場内の搬送にいたるまで、あらゆる場面での合理化、効率化に取り組んでいます。当社物流における最大の特徴は船舶による輸送です。本社のみならず各物流センターにも専用岸壁を設け、国内物流の基幹をなす製品輸送船も大型化するなど、創業当初から常に効率的な物流体制を追求してきました。21世紀は環境の時代。二酸化炭素の排出問題や限りある化石燃料資源への懸念から、エネルギー効率の良い物流が求められています。当社は船舶での大量輸送をベースにすることで、製品あたりの輸送エネルギーを抑え、環境負荷の低減に貢献できると考えています。「木を活かす」ために、何をすべきか?当社と全ての協力企業がこの理念を実現するために取り組んでいるのです。



原木の検品(アメリカ)



原木積み荷役(アメリカ)



原木降ろし荷役(本社専用バース)



「世界最大規模の原木船が就航中(51,800t 積高48,000m)」

## 海外から、直輸入システムで

中国木材は、北米から直輸入で原木を仕入れています。常に最大規模の原木専用船6隻が、北米と日本を往復しており、1ヶ月に5隻のペースで原木を運んできます。さらに、この大型船舶による大量輸送を最大限に活かすため、大型原木船専用の岸壁を自社内に建設し、北米と当社製材工場を直結する一港積み、一港降ろしという輸送体制を確立しています。大型船舶の輸送効率は、着岸回数によって極端に低下するため、当社の体制は最も効率の良い方法と言えます。また、当社の原木保管ヤードには製材量1週間分のストックしかないという管理体制です。この効率の良さが、当社の製品価格に活かしています。

# 国産材への取り組み

CHALLENGING AND EXTENDING INTO DOMESTIC SPECIES

国内では大量に植林されてきたスギをどう活用するかが大きな課題となっています。近年、日本は木材の多くを輸入に頼っており、国産スギは使用用途が少ないこともあって林業の採算は厳しいのが実情です。このままでは、日本の林業はますます衰退の一途をたどることになります。一方で、国内のスギは十分な量が保有され毎年その量は増加し続けています。中国木材では、必ず国産スギが見直される時代が来ると考え、スギとベイマツによる異樹種集成材(ハイブリッド・ビーム)やムク・ボードを開発しました。これらの製品は、今まで利用できないと山に放置されていた曲がり材や欠点材、さらに間伐材までを積極的に活用します。山の資源を上手に活用し、その経済価値を高めることは、森林整備や植林を含めた持続的活性化に繋がり、ひいては温室効果ガス削減にも大きな意義を持つものです。



- 森林認証 -  
SGEC認証を取得しました。



# 山林経営

PURCHASE AND MANAGE TIMBERLANDS

国産材事業に取り組むにあたり、安定供給は欠かせません。木材は非常に相場に左右されやすい商品です。安定して原木を供給する体制を整えるために、山林経営に取り組んでいます。現在保有している自社林は7,200haにおよびます。(2016年9月時点) 自社直営班によって自社林を伐採し、自社工場へ出荷、製品化しています。伐採後には、植林にも取り組んでいます。当社は国産材原木の育成から商品化、そして流通までの一貫体制を目指します。さらに、将来日本国内の住宅着工が減少することを見据え、国産材製品の輸出にも取り組み始めています。



熊本県人吉の自社林

## 出材の様子



自社直営班による伐採



スイングヤーダ(林業機械)を使って伐採した木をおろした後、枝をきれいに払っていきます

## 植林



新しく植えた木は、間伐などの必要な手入れを経て成長していきます。そうして伐採期を迎えるまで40~50年。息の長い事業です

# あたらしい発想と技術が生む独自の品質

OUR QUALITY IS BASED ON INNOVATIVE TECHNOLOGY

## ドライ・ビーム ベイマツ乾燥材

### DRY BEAM

現代の住宅建築は、「工期短縮」「高気密・高断熱」「高耐震・高耐久」「健康」などがキーワード。住宅の骨格となる構造材はそれらの要求を満たす最も大切な役割を担っています。当社が開発した住宅構造用乾燥材「ドライ・ビーム」は、厳選されたベイマツ丸太から良質な無垢素材を取り出し、当社の誇る最高水準の乾燥技術により丁寧に乾燥させ製品化しています。他に類を見ない大規模な乾燥設備と徹底した品質管理のもと、日本の住宅を支える部材としてさらに躍進を続けています。



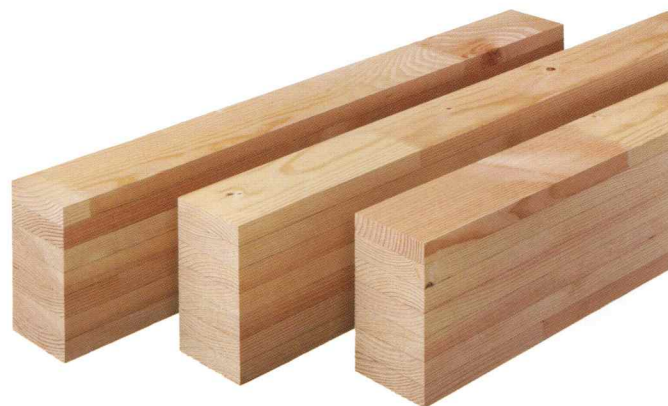
## ラミナ・ビーム ベイマツ集成材

### LAMINA BEAM Douglas fir

(E105-F345, E120-F330(まぐき), E135-F375, E135-F405, E150-F435, E170-F540)

※E150-F435, E170-F540は受注生産品です。

ベイマツ原木より強度選別された集成材「ラミナ」を素材とし、当社の乾燥技術とJASに基づく徹底した品質管理のもと生産されています。環境水準もJASで最も厳しいF☆☆☆☆をクリア。ラミナ・ビームの特長は豊富な強度バリエーションと高い信頼性です。



## 大断面集成材

### LARGE DIMENTION LAMINATED LUMBER

生産可能最大サイズ：長さ13m×厚み500mm×幅1200mm

## ハイブリッド・ビーム 異樹種集成材

### HYBRID BEAM

(E105-F300, E120-F330)

古くから日本人の生活に深く関わってきた国産材を代表するスギ。そのスギの長所とベイマツの長所を組み合わせ、理想の集成材として誕生したのがハイブリッド・ビームです。曲げ応力負担の大きい外層部には強くてたわみにくいベイマツ、内層部には、軽くて粘り強いスギを使用した軽くて強いハイブリッド・ビームは、異樹種として日本で初めてJAS認定を取得した構造用集成材です。外層にヒノキ、内層にスギを使った、国産材のみのハイブリッド・ビームも生産しています。



## 国産材シリーズ

### DOMESTIC SPECIES SERIES

環境問題への配慮から見直されている国産材、その中でも古来より重要な木材として重宝され、住宅の構造材や造作材として最も使用されているスギ。加工が容易な上に緻密で狂いがなく、日本人好みの強い芳香を持ち、建材として最高品質とされるヒノキ。当社の誇る最高技術を駆使し、あらゆる用途にお応えするため、スギ、ヒノキでグリーン材、KD材、集成材を製品化しました。

## 集成材

### スギ集成材



※写真はスギ集成材E65-F225

### スギ集成管柱

(E65-F255)



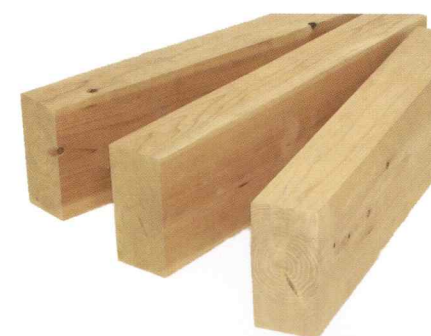
### ヒノキ集成土台

(E105-F345)

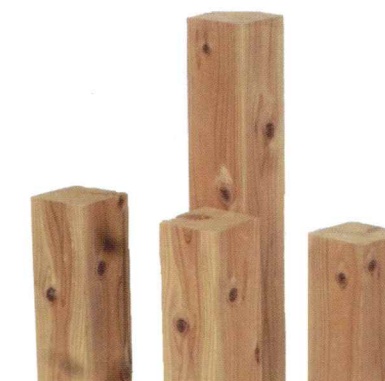


## 乾燥材

### スギ乾燥平角



### スギ乾燥管柱



### ヒノキ乾燥土台



## 一本一本に心をこめて

中国木材の全ての製品は厳格な品質管理体制のもとで生産されています。乾燥材やラミナ（集成材用ひき板）は、厳しい含水率検査に合格したもののだけ次工程に送られます。またヤング率（たわみ強度）による等級分けで、品質基準に満たない不適格品は除外される仕組みです。性能はもちろん外観品質にもこだわり、各種センサーや熟練した検査員による品質管理体制により、住む人が安心できる住宅用構造材として確かな品質をお届けします。

# 国産材のさらなる可能性を求めて NEW PRODUCT

## 生活のあらゆるシーンに国産材の活躍の場を

中国木材は国産材に新たな可能性を見出すべく、新商品開発に取り組んでいます。

### ムク・ボード (スギ・ヒノキ)

間伐材や未利用材を活用し、横継ぎして住宅の床下地材として利用できるボードです。接着剤の使用量を極力抑えた幅広板で、床材としての利用だけでなく多目的な活用の可能性を秘めています。



天井あらわし(スギ)



テーブル天板・床(スギ)

### セラウッド (スギ・ヒノキ・ベイマツ・RW)



乾燥機内温度を180~200℃に設定し高温処理をしています。寸法安定性や耐侯性が増し、デッキ材、外壁など外構材として使用できる木材です。

### フローリング・壁材 (スギ・ヒノキ・ベイマツ)



板材を利用して内装材の生産を始めました。無垢をふんだんに利用した健康的な空間作りにお役立てください。

## ~国産材の需要拡大を目指して~

国産材製品の海外輸出展開中(中国・韓国・台湾への輸出実績あり)

# より高性能な住宅のために

FOR HOUSE OF HIGHER PERFORMANCE

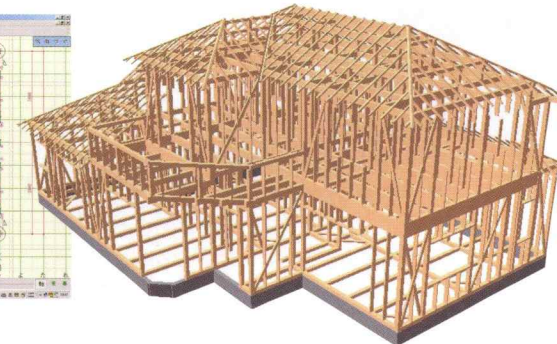
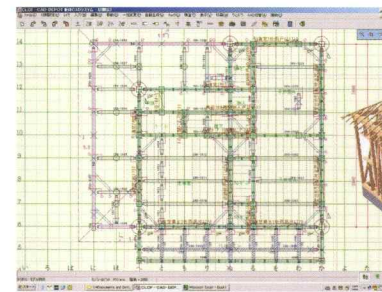
## プレカット 加工製品

### PRE-CUT PRODUCTS

職人の減少や住宅建築の工期短縮から急速な勢いでプレカット化が進んでいきました。プレカットとは構造材の仕口加工などを工場ですべて機械化して行うことです。現場での加工を減らすことで、工期短縮や加工精度向上、現場廃材の削減などにつながっています。住宅用構造材のメーカーである当社がプレカット加工を自ら行なうことで、お客様のニーズ、時代のニーズを深く理解することができると考えています。そして、お客様からのプレカットへの要請に応えることで、お客様の販売活動を支援し共に発展していきたいと考えています。



郷原工場 CADルーム

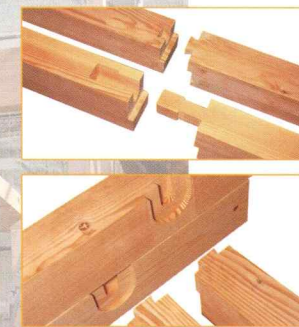


### お客様をトータルサポート

中国木材は郷原工場、伊万里事業所、名古屋事業所、東海事業所に全自動CAD/CAMシステムを導入したプレカット工場を併設し、全国のお客様のご要望にタイムリーにお応えできる環境を整えています。軸組構造材、羽柄材、パネル材の加工を行い、金物工法にも対応しています。また、プレカット加工のほか金物や合板、基礎パッキン配置図などもカバーしており、見積りから構造計算まで住宅生産に関わる情報の提供とサポートを行っています。

### プレカット工場加工能力

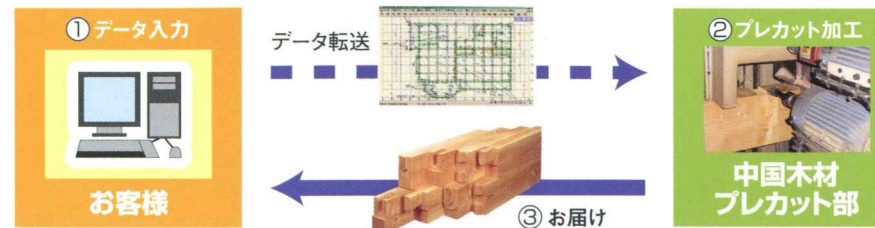
・郷原工場	月産	19,000坪(3ライン)
・東海工場	月産	10,000坪(3ライン)
・名古屋工場	月産	9,000坪(1ライン)
・伊万里工場	月産	7,000坪(1ライン)
・株光プレカット	月産	4,600坪(1ライン)



## CADデポシステム プレカット顧客支援システム

### CAD-Depot SYSTEM

CADデポシステムとは、お客様に入力して頂いたCADデータで、当社が加工を行なうシステムです。当社のプレカット工場を、あたかもお客様の工場のように活用していただける画期的なシステムです。



### CADデポの流れ

- ① お客様が受注した建築データを専用のCAD端末に入力して送信。
- ② 受け取ったデータで中国木材がプレカット加工。
- ③ 中国木材がお客様の指定場所にお届け。

# 全国に広がるネットワーク

NETWORK EXPANDING COUNTRYWIDE

中国木材は全国10ヶ所の物流拠点による物流と情報のネットワークを構築しています。目まぐるしく変化する市場の動向を的確に把握して生産体制を強化し、結果を流通につなげる努力を続けています。



## 本社工場

日本最大の生産能力を誇る製材工場です。そして常に品質、精度、安全性の向上やコストダウンに繋がる設備の改善を積極的に行なっています。原木の大量輸入システム、巨大な生産を支える製材・加工システム、製品の大量配送システム、そしてそれらのシステムをリアルタイムで結ぶ情報ネットワークが、高いパフォーマンスを実現しています。

敷地面積:150,500㎡(45,500坪)

## 本社広島センター

担当エリア:広島県、山口県、北海道、沖縄県

## 郷原工場

乾燥材「ドライ・ビーム」、集成材「ラミナ・ビーム」「ハイブリッド・ビーム」の製造、プレカット加工を行っています。これらは原材料からの徹底した品質管理体制とスケールメリットを活かすことにより、高品質で且つコストパフォーマンスの高い製品の生産が可能となりました。

敷地面積:130,200㎡(39,400坪)

## 北広島工場

ひろしま木材事業(協) 敷地面積:80,000㎡(24,200坪)

## 伊万里工場

伊万里センター 敷地面積:331,800㎡(100,400坪)

担当エリア:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

## 西九州木材事業(協)

伊万里事業所は、最新鋭国産材製材システムを持つ西九州木材事業(協)、原木集荷など幅広いネットワークを持つ伊万里木材市場(株)と共に、原木集荷から製材・乾燥・集成・プレカット・流通までを一貫して行える木材コンビナートを形成しています。

## 日向工場

小径木から大径木まであらゆる原木を受け入れる国産材工場です。原木集荷から製材・乾燥・集成・発電事業まで一体となった事業展開により、国産材を余すことなく有効活用していきます。価値の高い国産材製品を作りだし、輸出することで世界と競争できる工場を目指します。日向は輸出拠点としても重要な役割を担っていきます。このようにして、日本の林業再生のモデルケース「日向モデル」を構築し、林業活性化に貢献できる工場です。

敷地面積:465,000㎡(140,700坪)

## 宮の郷木材事業(協)

宮の郷工場 敷地面積:60,500㎡(18,300坪)

## 長良川木材事業(協)

敷地面積:101,300㎡(30,700坪)

## 東北センター

敷地面積:59,000㎡(17,800坪)  
担当エリア:青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県

## 東京センター

敷地面積:114,900㎡(34,800坪)  
担当エリア:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、福島県

## 東海事業所

敷地面積:118,400㎡(35,800坪)  
東海センター 担当エリア:山梨県、静岡県

## 大阪センター

敷地面積:18,500㎡(5,600坪)  
担当エリア:滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、和歌山県、兵庫県

## 岡山センター

敷地面積:10,300㎡(3,100坪)  
担当エリア:岡山県、鳥取県、島根県、香川県、徳島県、高知県、愛媛県  
(株)光プレカット

シアトル  
アメリカ事務所



## 鹿島工場

世界最新鋭の設備を導入し、本社工場・郷原工場と同等の生産能力を誇る新工場が稼働を開始しました。北米の原木調達地から東日本市場までの大幅な物流短縮となり、大きなコスト競争力を見込んでいます。また、新たな生産拠点の確保は天災など万一の際の備えにもなり、お客様への供給責任を充分に果たしていくことができます。

敷地面積:600,700㎡(181,700坪)

## 神之池バイオエネルギー(株)

## 名古屋事業所

敷地面積:65,600㎡(19,800坪)  
名古屋センター 担当エリア:愛知県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県



◎2003年グッドデザイン賞受賞 名古屋事務所棟  
◎2006年日本建築学会作品選奨受賞

所在地  
● 本社 ● 物流拠点  
● 工場 ● 関連会社

事業内容  
国 国産材製材 製 米材製材 P プレカット 配 配送  
乾 乾燥加工 集 集成 大 大断面 バ バイオマス

# 森林資源を活用し、地球環境保全に貢献

MAKE THE BEST USE OF THE FOREST RESOURCE AND  
CONTRIBUTE TO THE PRESERVATION ON THE ENVIRONMENT OF THE EARTH



代表取締役社長  
堀川 智子

中国木材は木材住宅の構造材メーカーとして常に環境のことを考え、より良い部材を安定して供給することを最大の使命と考えてきました。そのため、ベイマツ乾燥材「ドライ・ビーム」を試行錯誤の上に開発。原木は北米で計画的に植林し再生するサイクルが確立されたものを使用しています。

しかし、ベイマツだけでは安定供給の面でリスクが伴うこと、また国内林業の衰退や森林の荒廃といった問題にも取り組むべく、国産材事業も手掛けるようになりました。従来利用が難しいと評価の低かった国産スギを有効利用する為に、強度に優れたベイマツと組み合わせた異樹種集成材「ハイブリッド・ビーム」を開発し、利用拡大に積極的に取り組んでいます。

自社工場から排出される樹皮やオガ粉、端材などはバイオマス発電で燃料として活用し、電気や木材乾燥に必要な蒸気を効率良く得ています。原木を山から直接仕入れ、製材、乾燥、集成、プレカット、バイオマス発電の一貫した生産システムと合理的な物流システムによって、適材適所で森林の価値を最大化し、地球環境にも貢献できるものと確信しています。

今後日本は少子高齢化で住宅着工数は減少すると考えます。従って住宅の構造材のみならず木材の可能性を幅広く探っています。また、海外輸出も次の柱に育てたいと考えています。

経営理念を具体化した「五誓」の1つに「お客様に中国木材の価値を理解して頂き、共存共栄を図ります」という文言があります。人々の価値観や市場が常に変化していく中で、求められる製品を作り、よりきめ細かな対応ができることが大切だと考えます。いつまでもお客様に必要とされ、お客様に喜んで頂ける様努力して参りますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

Chugoku Mokuzai's mission has been to consistently supply the best structural products for wooden housing while maintaining the highest environmental standards. Through a continuous process of trial and error, Chugoku Mokuzai developed "Dry Beam"; a Douglas fir kiln-dried product. Sustainable forests in North America, where the cycle from planting to harvest is established, provide the Douglas fir we use as the raw material for our products.

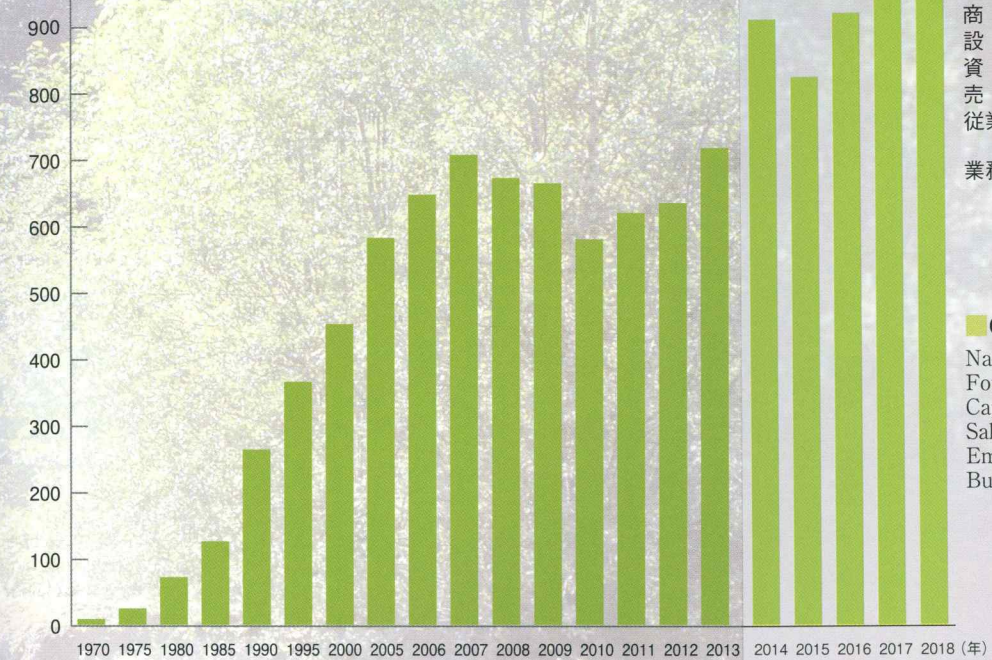
Due to a risk of unstable supply with Douglas fir and to address the issues of the declining forest industry and degrading forests in Japan, we started our Japanese domestic timber business. In order to efficiently utilize domestic timber, Sugi, which was up until recently difficult to use and evaluated low, Chugoku Mokuzai has developed a laminated lumber called "Hybrid Beam" which combines strong Douglas fir and domestic Sugi. Chugoku Mokuzai has been working on increasing the use of Sugi.

Bark and sawdust generated from our sawmills are consumed as the fuel for our biomass boilers. The electricity and the necessary steam for our drying kilns are obtained efficiently from these boilers. We are confident that we are able to maximize the forest value appropriately and to contribute to the improvement of the global environment. What makes this possible is our strategic logistics and production system, which is consistent from direct log procurement from forests, lumber sawing, drying, laminating, precutting, to our biomass power plant.

Chugoku Mokuzai anticipates that housing starts in Japan will decrease owing to the dwindling birth rate and the aging population. Therefore, we are searching for the possibility of wooden material usage beyond structural lumber for housing. We aim to develop an overseas export market as the next extension of our business.

Chugoku Mokuzai has "Five Pledges" which embodies our management philosophy. One of the pledges shows our wish for our customers to understand the value of Chugoku Mokuzai, making an effort together for coexistence and co-prosperity. While the values of people and markets change, it is important to create products that reflect society's needs and respond to consumers demands with immediacy and accuracy. We appreciate your continued support and we will continue to strive to fulfill our customers' expectations.

売上高の推移



## ■会社概要

商号 中国木材株式会社  
 設立 1955年1月20日(創業1953年5月1日)  
 資本金 1億円  
 売上 1,084億円(2018年6月期)  
 従業員数 2,379名  
 (2018年6月30日現在、グループ会社及び派遣社員含む)  
 業務内容  
 1.木材の製材及び物流、販売、輸出  
 2.乾燥材、集成材の製造販売  
 3.プレカット加工  
 4.原木及び製材製品の直輸入  
 5.山林の取得及び経営  
 6.木質バイオマス発電

## ■OUTLINE

Name Chugoku Lumber Co., Ltd.  
 Foundation January 20,1955  
 Capital 100million yen  
 Sales 108billion yen (Year ended June 30, 2018)  
 Employees 2,379  
 Business  
 1.Sawmill, distribution and lumber sale, export  
 2.Production and sale of KD and Glue-lam lumber  
 3.Pre-cut processing  
 4.Direct import of logs and lumber  
 5.Purchase and manage timberlands  
 6.Wood bio-mass power plant

最新情報はホームページをご覧ください。  
<http://www.chugokumokuzai.co.jp>

## ■沿革

年	内容
1953	日本で初めてチップ工業の企業化に成功
1961	社団法人日本木材加工技術協会より木材加工技術賞を受賞
1967	関連会社マルホ木材工業(株)を設立、北洋材製材を開始
1969	中国チップ工業(株)を中国木材(株)と商号変更
1977	全工場を改築し米材、北洋材両樹種製材体制確立
1983	新工場用地取得、本社を移転し、第一期工場に着手
1984	大阪センター開設
1985	東京センター開設
1987	東北センター開設
1988	名古屋センター開設
1989	東海センター開設
1989	Tokai distribution center opened
1989	Started production of KD hirakaku named "DRY BEAM"
1990	岡山営業所を移転し、岡山センターとする
1992	本社38,000トンバース完成
1992	38,000 ton berth completed
1994	"DRY BEAM" registered as the trademark
1995	No.5 factory (kiln drying and pre-cutting) completed
1997	Gohara complex (KD, Lamination, Precut) completed
1997	Registered JAS grading for laminated lumber as "LAMINA BEAM"
1999	Got ISO9001 recognition
2001	Started precut business in Tokai Business Establishment, which used to be Tokai distribution center
2002	Acquired JAS certification for "DRY BEAM"
2002	Acquired the first JAS certification in Japan for different species laminated beam "HYBRID BEAM"
2002	伊万里事業所開設
2003	創立50周年を迎える
2003	名古屋センターを名古屋事業所としてプレカット事業を開始
2003	Started precut business in Nagoya Business Establishment, which used to be Nagoya distribution center
2004	伊万里事業所にて集成材事業開始
2004	Production of "LAMINA BEAM" started in Imari Business Establishment
2004	伊万里事業所でのプレカット事業開始
2004	Precut started in Imari Business Establishment
2004	西九州木材事業協同組合の設立
2004	Established "West Kyushu Lumber business cooperative"
2005	本社5,000kWバイオマス発電設備稼働
2005	5,000kW biomass cogeneration started in Headquarters
2007	鹿島工場稼働
2007	Start-up of Kashima factory
2008	神之池(鹿島)バイオマス発電設備稼働
2008	Start-up of Gonoike (in Kashima) bio-mass co-generation plant
2008	ひろしま木材事業協同組合設立
2008	Established "Hiroshima Wood business cooperative"
2010	宮の郷木材事業協同組合を設立
2010	Established "Miyanosato Wood business cooperative"
2011	北広島工場稼働
2011	Start-up of Kitahiroshima sawmill
2011	宮の郷木材事業協同組合工場稼働
2011	Start-up of "Miyanosato Wood business cooperative"
2012	鹿島集成材工場(小・中断面)竣工
2012	Completed the construction of Kashima Glu-Lam Plant for small and medium sized cross section
2013	鹿島集成材工場(大断面)竣工
2013	Completed the construction of Kashima Glu-Lam Plant for big sized cross section
2014	日向工場稼働
2014	Start-up of Hyuga factory
2015	長良川木材事業協同組合稼働
2015	Start-up of "Nagaragawa Wood business cooperative"





人と環境のことを一歩進んで考えています  
**ほ** 中国木材株式会社

《本社及び本社工場》

〒737-0134 広島県呉市広多賀谷3-1-1  
 (大代表) ☎(0823)71-7141

- 経営企画部 ☎(0823)71-7147 FAX(0823)71-7154
- 情報システム課 ☎(0823)70-0351 FAX(0823)71-7154
- 経理部 ☎(0823)71-7168 FAX(0823)71-7169
- 人事・総務部 ☎(0823)71-7142 FAX(0823)71-9152
- 営業本部 ☎(0823)71-7144 FAX(0823)73-1243
- 物流部 ☎(0823)71-7157 FAX(0823)71-7164
- 貿易部 ☎(0823)71-7146 FAX(0823)73-9311
- 山林事業部 ☎(0823)55-7787 FAX(0823)55-7788
- プレカット本部 ☎(0823)71-7182 FAX(0823)55-3987
- 製材部 ☎(0823)71-7143 FAX(0823)72-6169
- 管理部 ☎(0823)71-7143 FAX(0823)72-6169
- 電力事業部 ☎(0823)71-7199 FAX(0823)71-7880
- 設備部 ☎(0823)71-7199 FAX(0823)71-7880
- 安全衛生管理室 ☎(0823)71-7143 FAX(0823)72-6169

《郷原工場》

〒737-0161 広島県呉市郷原町字一ノ松光山626-2郷原工業団地  
 加工部 ☎(0823)77-2221 FAX(0823)77-2227  
 設備部 保全課 ☎(0823)77-2261 FAX(0823)77-2262  
 設備部 動力課 ☎(0823)77-2263 FAX(0823)77-2264

《伊万里生産部》

〒849-4251 佐賀県伊万里市山代町楠久字鳴石搦三929-93  
 伊万里集成材課 ☎(0955)20-2233 FAX(0955)20-2234

《鹿島工場》

〒314-0103 茨城県神栖市東深芝1-1  
 鹿島工場 ☎(0299)91-1351 FAX(0299)90-0761  
 鹿島加工工場 ☎(0299)91-1353 FAX(0299)90-0765  
 鹿島集成材工場 ☎(0299)87-1108 FAX(0299)92-2620

《国産材工場》

〒731-2104 広島県山県郡北広島町大朝字船埜5206-37  
 北広島工場 ☎(0826)82-7555 FAX(0826)82-7038  
 〒883-0063 宮崎県日向市竹島町1-101  
 日向工場 ☎(0982)50-2882 FAX(0982)50-2883

《プレカット》

〒849-4251 佐賀県伊万里市山代町楠久字鳴石搦三929-93  
 伊万里プレカット部 ☎(0955)20-2235 FAX(0955)20-2179  
 〒737-0161 広島県呉市郷原町字一ノ松光山626-50郷原工業団地  
 郷原プレカット部 ☎(0823)77-2223 FAX(0823)77-2225  
 〒498-0066 愛知県弥富市楠3-33  
 名古屋プレカット部 ☎(0567)68-6131 FAX(0567)68-6151  
 〒421-0213 静岡県焼津市飯淵2027  
 東海プレカット部 ☎(054)622-7642 FAX(054)663-3923  
 〒252-0205 神奈川県相模原市中央区小山2-6-39 霧生ビル3階  
 神奈川CAD室 ☎(042)775-6377 FAX(042)718-5277

《物流ネットワーク》

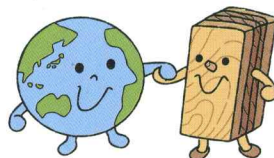
〒849-4251 佐賀県伊万里市山代町楠久字鳴石搦三929-93  
 伊万里センター ☎(0955)20-2231 FAX(0955)20-2232  
 〒702-8003 岡山市中区新築港6-1  
 岡山センター ☎(086)276-8912 FAX(086)276-8428  
 〒559-0032 大阪市住之江区南港南6-7-70  
 大阪センター ☎(06)6614-1497 FAX(06)6614-1034  
 〒498-0066 愛知県弥富市楠3-33  
 名古屋センター ☎(0567)68-5391 FAX(0567)68-5392  
 〒421-0213 静岡県焼津市飯淵2040  
 東海センター ☎(054)622-7641 FAX(054)622-0098  
 〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港227-1  
 東京センター ☎(043)301-7891 FAX(043)301-7892  
 〒983-0001 仙台市宮城野区港2-1-1  
 東北センター ☎(022)259-1431 FAX(022)259-1410

《アメリカ事務所》

3042 Gardenia Lane SW #12-202 Tumwater, WA 98512  
 ☎(360)915-8687

ホームページ

<http://www.chugokumokuzai.co.jp>



ISO9001:2008認証取得  
 (日向工場・アメリカ事務所を除く)

2016.11

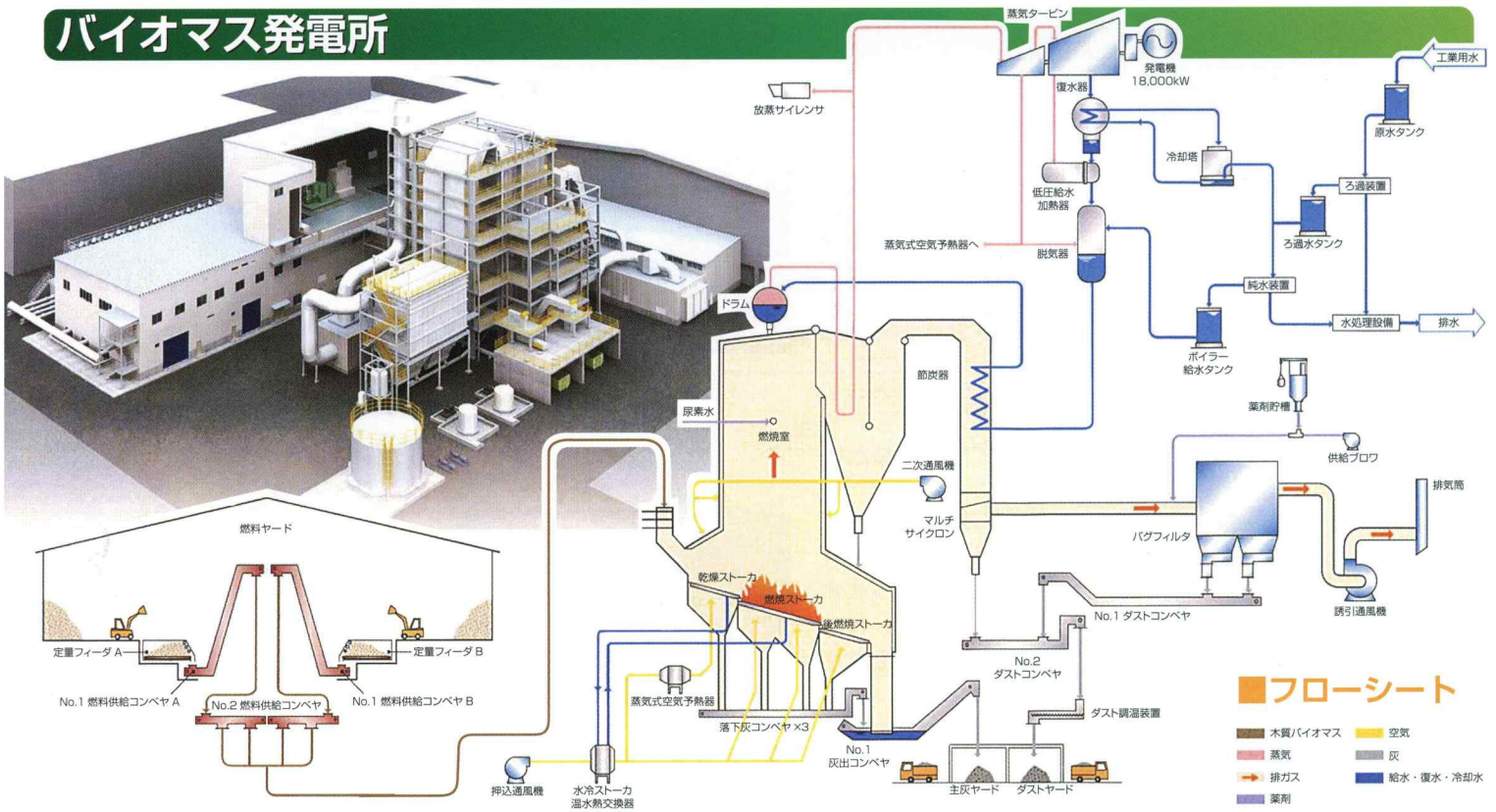


# CHUGOKU LUMBER HYUGA

中国木材株式会社 日向工場



# バイオマス発電所



## ボイラー概要

ボイラー型式：タクマ自然循環式ボイラー  
 最高使用圧力：7.20MPa (G)  
 常用圧力：6.00MPa (G)

常用蒸気温度：460℃  
 実際蒸発量：75,000 kg/h  
 使用燃料：パーク、生オガ、乾燥オガ、木端、生木他（一般木材及び未利用木材）

蒸気タービン型式：抽気復水タービン  
 発電端出力：18,000kW

再生可能エネルギー設備認定取得 認定番号 0938319H45



**燃料ヤード**

各種燃料を受け入れ一時的に保管します。



**定量フィーダ**

各種燃料を定量供給する機械です。



**燃料供給コンベヤ**

自動制御によりコンベヤ搬送で燃焼室内へ安定供給されます。



**水冷式階段ストーカ**

シンプルな構造で幅広い燃料種類に対応ができ、連続運転が可能です。



**バグフィルタ**

排ガス中の煤塵などを除去しクリーンな排気にします。



**主灰ヤード・ダストヤード**

燃焼灰、飛灰を貯留します。



**誘引通風機**

バグフィルタでクリーンとなった排ガスを大気へ放出するため排気筒へと送ります。



**蒸気タービン・発電機**

蒸気を利用して発電機を駆動させ電力を発生させます。



**非常用発電機**

停電時に自動的に発電機を駆動し、設備に電力を供給します。



**冷却塔**

蒸気を冷却し水に戻します。



**押込通風機**

木質バイオマスを燃焼するための空気を送ります。

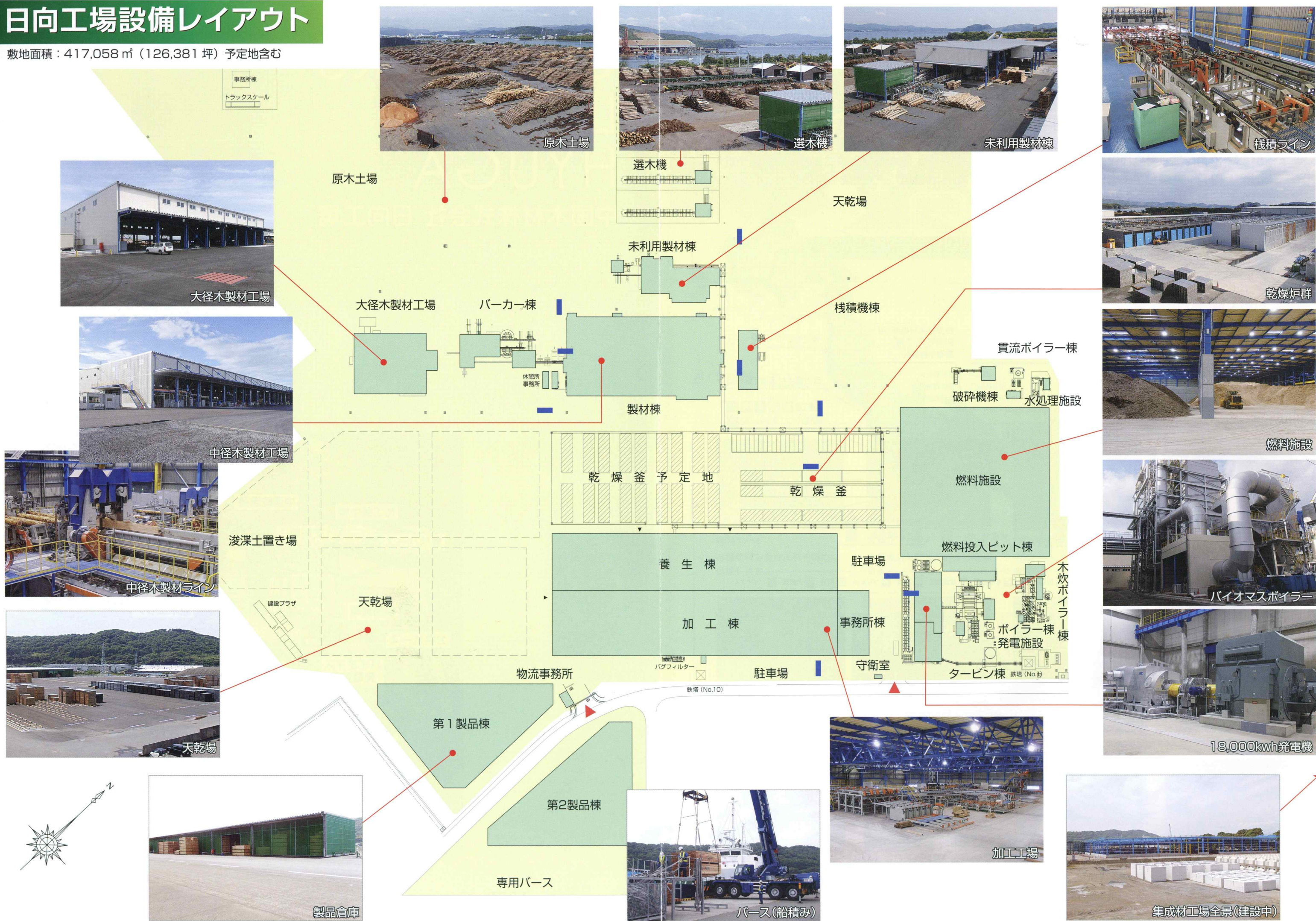


**中央操作室**

ボイラー及びタービン発電機その他補機類はすべて中央操作室で管理されます。

# 日向工場設備レイアウト

敷地面積：417,058㎡（126,381坪） 予定地含む



原木土場



選木機



未利用製材棟



棧積ライン



大径木製材工場



中径木製材工場



中径木製材ライン



天乾場



乾燥炉群



燃料施設



バイオマスボイラー



18,000kwh発電機



製品倉庫



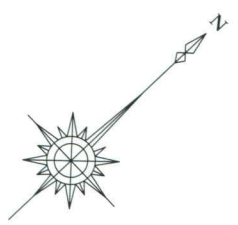
バース(船積み)



加工工場



集成材工場全景(建設中)



## 製材工場

### 中径木ライン

ツインバンド製材送台車を2基設備することで、工場として、8秒に原木1本を処理する事が可能です。  
原木を光学的に形状認識し、1本1本の原木からより多くの製品を取り出す事で原木の価値を高めます。工場全体の自動化と省力化を徹底的に進めた大量生産製材ラインです。製品としては、集成製品用材(ラミナ)、乾燥製品用材、杉グリーン桁角・柱角を生産します。



- [仕様] 長さ：3m、4m  
径級：16cm～50cm  
(末口) (元口)
- [能力] 製材量(2シフト)  
1,100 m<sup>3</sup>/日  
25,000 m<sup>3</sup>/月

### 未利用材ライン

これまで山で放置されていた細い原木や曲がり原木などを活用する為に開発したラインです。  
これら原木から、利用可能な部位を取り出し製品化することで、未利用原木の価値を高め、山元へ還元することを目指します。最終的に、製材不可能な原木についてはバイオマス発電用に使います。  
製品としては、幅接ぎ集成板(ムクボード)用材や梱包材を生産します。



- [仕様] 長製材原木長さ：2m～4m  
製材径級：8cm～14cm  
(末口) (元口)  
製品長さ：2m、2.5m  
燃料原木径級：50cm迄
- [能力] 投入量(2シフト)  
250 t/日  
5,000 t/月

### 大径木ライン

山では杉の大径木化が進行しており、それに対応できるシングルバンド製材送台車などを設備した製材ラインです。設備設置は2期に分けて行います。第1期工事のラインは2015年7月から稼働を開始します。  
製品としては、中径木ラインと同様ですが、造作材も含めたお客様の細かなニーズにも積極的に挑戦します。



- [仕様] 長さ：3m、4m  
最大径級：80cm
- [能力] 製材量(2シフト)  
1期工事：6,000 m<sup>3</sup>/月  
2期工事：12,000 m<sup>3</sup>/月

## 乾燥・加工工場

### 棧積ライン

乾燥を効率良く行うために、素材と素材の間に隙間を作る棧を入れるラインです。  
柱・桁材では上下の隙間だけでなく、左右にも隙間を作ります。  
ラミナのような薄い板から、柱・桁材のような厚い木材までこのラインで棧積み可能です。  
すべて全自動で行なう高生産性の棧積ラインです。



- [仕様] 長さ：3m～5m  
厚さ：12mm～130mm  
幅：～300mm
- [能力] 3m 柱材：7,350 m<sup>3</sup>/月  
4m ラミナ材：6,300 m<sup>3</sup>/月

### 乾燥機

高温乾燥機と中温乾燥機を備え、あらゆる製品の乾燥に対応できます。  
乾燥スケジュールは永年培った弊社独自のノウハウにて、均一でムラのない乾燥で割れない商品を生産します。



- [仕様] 高温乾燥機 容量：50 m<sup>3</sup>/基  
台数：30基  
中温乾燥機 容量：200 m<sup>3</sup>/基  
台数：12基
- [能力] 高温乾燥機：3,000 m<sup>3</sup>/月  
中温乾燥機：12,000 m<sup>3</sup>/月

### 加工工場

KD柱、KD桁材、AD・KD小割材、ラミナ材、GRNプレーナ材など、すべての製品を仕上げる工場です。  
KD柱材などの無垢材専用ラインと、集成材用のラミナ専用ラインに分かれています。  
それぞれの製品に求められる品質を追求する事が可能なライン構成です。



- [仕様] 柱・桁、小割り用  
ムラ取り機、モルダー(60m/分)  
打撃式ヤング率計、マイクロ波含水率  
ラミナ用  
MSR、モルダー(300m/分)  
マイクロ波含水率計
- [能力] 柱・桁材：5,000 m<sup>3</sup>/月  
小割り材：2,500 m<sup>3</sup>/月  
ラミナ材：7,200 m<sup>3</sup>/月

建設進捗と今後の計画

2013年 10月	建設開始	2015年 7月	大径木製材工場稼働予定
2014年 9月	未利用材工場 稼働開始	2015年 12月	第二製品棟完成予定
2014年 10月	製材工場 商業稼働開始	2016年 4月	小断面集成材工場稼働予定
2014年 12月	第一製品棟完成	2016年 5月	大径木製材工場追加ライン稼働予定
2014年 12月	乾燥加工工場 商業稼働開始	2018年末	専用バス完成予定
2015年 3月	バイオマス設備 発電開始		

全国に広がる製販物流ネットワーク



中国木材株式会社 日向工場  
宮崎県日向市竹島町 1-101 電話 (0982) 50-2882

**中国木材株式会社**